

ラーニング・サポーター ♪ 1月のつぶやき -JWU ラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています!

<1月のつぶやき♪INDEX>

- p.1 西洋における馬と19世紀のファッショ @K.W.(生活環境学専攻(被服学)博士課程後期2年) 1月30日 First tweet!
 p.2 俗信のゾートロープ-丙午 @T.K.(相関文化論専攻博士課程後期3年) 1月21日 tweet!
 p.2 春 @S.S.(日本文学専攻博士課程前期2年) 1月20日 tweet!

つぶやき1 ♪ 西洋における馬と19世紀のファッショ

はじめまして。1月から新たにラーニング・サポーターの一員になりました、人間生活学研究科生活環境学専攻の博士課程後期2年のK.W.と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

そして、新年あけましておめでとうございます。今年は午年ですね。今回は、午年にちなんで、西洋における馬と19世紀のファッショについてお話ししようと思います。

西洋では、乗馬は長く上流階級の特権的なレジャーとして愛されてきました。かの有名なマリー・アントワネットも乗馬好きであったことが知られています。19世紀後半になると、特に女性たちの間で乗馬がブームとなり、活動的かつ上品なたしなみの一つとしてより多くの女性たちに広まっていきました。これを読んでくださっている方々の中には、テレビやインターネット上で馬術競技などを目にしたり、あるいは乗馬をしたことがある方もいるかと思います。そのイメージのほとんどが、騎手がズボン姿で馬にまたがっている様子なのではないでしょうか。しかし、19世紀の女性たちの乗馬の様子は異なります。当時、多くの女性たちには(特に乗馬をしたしなむ上流階級の女性たちには)、厳しい服装規範の順守が求められ、人前では常に裾の長いドレスまたはスカートを履くことがマナーでした。また、19世紀は、ズボンは男性の衣服であるとの社会通念から、特別な場面を除いて女性のズボン着用が禁止されていた時代もあります。乗馬は特別な場面のような気もするのですが…当時はこうした服装規範が乗馬の場面でも重視されていました。具体的には、乗馬をする女性たちは、基本的にアマゾーヌと呼ばれるテーラーメイドのジャケットと裾の長いスカートが組み合わさった女性用乗馬服を着用します。アマゾーヌは、ジャケットを含む無彩色の上下揃いで構成される場合が多く、スカートの中にはズボン型の衣類が隠されているなど、男性服の要素が取り入れられた部分も見受けられます。しかし、当時の社会が考える女性らしさを逸しないことが非常に重要であったため、女性たちは乗馬の際にも、裾の長いスカートを履き、動きににくいコルセットを締め、基本的には横乗りで騎乗していたのです。乗馬は時に危険の伴うスポーツですし、現代の感覚からすればなんとも不可思議なことですよね。20世紀初めになると、正式に女性は馬にまたがることができるようになり、時代が進むにつれて動きやすい安全なファッショングが女性たちにも広がっていきました。私は、動きやすくて楽なファッショングが大好きなので、女性への価値観やそれに伴うファッショングの在り方が変化してくれて心からよかったですといつも感じています。みなさんが当たり前に感じている日常やファッショングにも、様々な歴史があったのだなーと感じてもらえたなら嬉しいです。

人間生活学研究科 生活環境学専攻

自己紹介

博士課程後期2年 西洋服飾史
本学 家政学部 被服学科(学部)卒業
本学 家政学研究科 被服学専攻(修士課程)修了

研究対象

19世紀フランスの衣装を中心とする装いに関する研究

ひとこと

授業や課題、卒論に関することなど、大学生活の中で困ったことがあった際には、お気軽にご相談ください!



つぶやき2♪ 俗信のゾートロープ - 丙午

新年明けましておめでとうございます。周期的に巡ってくるものと聞いて、皆様が最初に思い浮かべるものは何でしょうか。季節、行事、当番や役職など、人生においては様々なものが巡ってきますよね。

年末年始には、二〇二六年は丙午(ひのえうま)の年と大きく取り上げられていたのが印象的でした。皆様も、目にされる機会があったのではないかでしょうか。六十干支(十干(じっかん)(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)と十二支の六十通りの組み合わせ)を日常的に使わなくなつて久しいこの頃ですが、丙午だけは特別なようです。

「丙午」は陰陽五行説で表すと「火の兄」、すなわち陽の気と、南を表す午との組み合わせです。この年に生まれた女性は気性が激しく、家を不幸にするという俗信があります。江戸時代の寛文六年(一六六六)生まれと言われている、八百屋お七という女性が引き起こした火災が後世に脚色された結果、そのような迷信が生まれました。

そして、出生数の減少や、丙午生まれの女性への偏見に繋がるなど、社会に大きな影響を与えるようになりました。実際に、「昭和の丙午」と呼ばれる一九六六年には、出生数が前年に比べて約四十六万人も減少しています。翌年には約五十七万人増加しているので、多くの人が出産を控えた結果、この年が人口の谷間になったといえます。

現在は丙午にマイナスイメージを持つ人も少なくなっていると思いますが、中々偏見は消えにくいものです。周期的に巡ってくる場合は、強化されたり弱まったり、様々な姿を見せます。時代が巡り、丙午はどのように変化するのでしょうか。馬界隈でも午年が話題なのか、脱走したというニュースもありました。これも丙午ムーブメントの一つになるのでしょうか……？そんなことを考えながら、今日もゾートロープを覗き込んでいます。

つぶやき3♪ 春

皆さんこんにちは。2026年を迎えたが、いかがおすごしでしょうか。期末課題に追われる方、就職活動を目前に控える方、卒業を前に感傷的な気持ちに浸る方など、学年や立場、状況に応じて様々なお正月を過ごされたのではないかと思います。かくいう私も(これから修論が無事に提出でき、さらに単位が足りていればという条件付きですが、)刻一刻と近づく卒業を前に、しんみりと過ごしていました。

先日の共通テストでは、日本女子大学も会場校として使用されており、当日はキャンパス内で受験生と思われる高校生の姿を目にしました。頑張っている受験生の姿を見て、自分が大学受験をした当時のことを思い出し、あれからもう何年経つんだろうと、そして日本女子大学で過ごした何年もの日々に、つい思いを巡らせる自分がいました。

大学入学から6年間もの時間を共にした日本女子大学とももうすぐお別れなのかと思うと、寂しさを感じずにはいられません。卒業の時を迎えるまでできる限りのことをして、胸を張って新たな門出を祝えるように、改めて気を引き締めたいと思いました。

しかし、大学の卒業は日本女子大学との別れを意味しているわけではありません。日本女子大学には、長い歴史と伝統を持つ同窓会の「桜楓会」があります。各地に支部を持つ桜楓会を通じて、卒業後も大学および卒業生間の関わりを持つことができます！また、学内で行われているイベントに参加するという方法もあります。日本女子大学のホーム

人間社会研究科 相関文化論専攻 博士課程後期3年

研究分野 文化人類学、民俗学
日本におけるお祭りの社会的役割について

保有資格 博物館学芸員

サポート例 履修や研究の進め方、参考文献の集め方、レポートや研究計画書の書き方、フィールドワークの進め方、学芸員資格について

小さなことでも不安をサポートします！ お気軽にお声がけください。

文学研究科 日本文学専攻

自己紹介
・本学文学部日本文学科卒業
・博士課程前期2年 (M2) 日本語学専攻

資格
・教員免許状 (中高・国語)
・大学院では専修免許状の取得を目指しています

研究対象
古典文法における伝聞推定の助動詞「なり」の衰退について研究しています。
「なり」の調査に関連し、『土左日記』の写本にも関心があります。

ひとこと
日々の授業や課題に関する事、教職課程についてなど、学修や大学生活でお困りの際はぜひお気軽にお声がけください！一緒に考え取り組んだことが、皆様の実りある学生生活の一助となれば幸いです。ご相談をお待ちしております！

ページには、在学生や卒業生が参加できるイベント情報が掲載されています。先生方の最終講義やシンポジウムなど、参加しやすいものもたくさんあるため、ぜひホームページを覗いてみてください♪

そして、われらが図書館も卒業生に向けて開かれているのをご存知でしょうか？本学の図書館は、卒業生にも利用資格があります。個人利用はもちろんグループでの見学も可能で、事前の申し込みがあれば4人以上のグループでの見学も可能です！くわしくは新しくなった図書館のホームページをご覧いただければ嬉しいです♪いま学部1年生でまだ先の話だよ～と思った方にも、こういった制度があることはぜひ覚えていてほしいなと思います。この文章を読んだ方に、いつかこの情報を思い出していただけたら感無量です！

迫りくる別れのもどかしさと、新たな始まりに向けた高揚感が交じる今日このごろですが、こうした制度があること、また制度を知っていることで、みなさんが少しでも前向きに過ごせたら嬉しいです。

まだ肌寒い1月も、古典の世界では「春」にあたります。別れや始まりの季節である「春」が、そしてこれからの1年が、皆さんにとって素敵な年となるよう願っています。



ラーニング・サポーターのつぶやき（2026年1月）

ホームページ https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html

編集: JWU ラーニング・コモンズさくら